Total Care-Service
SOUSHINKAI

総合ケアサービス
株式会社 創心會

2009・Summer

第 2 号

The Journal of True Care

株式会社創心會®機関誌

夏 号

Vol.002

Index
2009 Summer

P01 ●14期　楽しんで働こう!! | 代表取締役：二 神 雅 一

P02 ●創心會ニュース_01「本物ケア学会」

P03 ▮最優秀賞［ピアグループの形成とその関わり］中州センター：三好 津美江

P04 ▮社長特別賞［創心流地域リハケアの視点でのアプローチ］
笠岡センター：小林 龍一・三谷 晃子・鈴木 啓吾

P05 ▮実行委員会賞［失語症へのアプローチ（身近な物を使って）］
本部センター：小谷 英二

P06 ▮百田 貴洋先生のお言葉・受賞者の感想

●創心會ニュース_02「心のケアを探してⅡ」（株）ケアプラネッツ　葉山靖明社長
葉山社長より届いたお礼状のご紹介
●「新入社員歓迎会」

P07 ●大石常務「若いころの苦労は買ってでもしろ!!」

P08 ●交通事故撲滅に向けて | 「訪問リハビリ部門交通事故対策委員会の取り組み」
●歓びの道 | 【私に感動体験】本部センター：渡部 あさみ・岡山センター：阿部 セツ子
●受賞の歓び | 本部センター：横山登岐子

P09 ●実践調理「リハビリ倶楽部陵南の取り組み」近藤 理裕・吉原 雄介・小橋 美里
●ニューフェイスのご紹介 | 本部センター：坂本 健二・東岡山センター：小竹 宏治

P10 ●生活力デザイナー | プロジェクト委員：山西 孝彦
●創心會の皆様へ | 岡山センター：松尾 祐作

P11 ●NEO茶屋町に対する各部門としての思い

P12 ●NEO茶屋町地鎮祭

P13 ● パソコンスキルアップ講座 | 松本 賢治
これは便利「オートフィルター」

P14 ● 掲示板 | 「第1回フレッシュ杯ボーリング大会」
● お知らせ・機関誌創刊号に寄せられたご意見やご要望
●編集後記

14期 楽しんで働こう!!

経営計画書には小難しいことを書いているなと思う方もいらっしゃるかもしれません。理解しようにも受け入れる素地ができていない方もいるかもしれません。しかし、落ち着いて紐解いていくと決して難しいものでもないのです。難解だと思う書籍に出会っても、自分の興味関心さえ失わなければ、何度か読み返していくうちに、ふと理解できるようになります。英語がわからない人であっても、英語圏に身を置けば数か月もすれば理解できるようになるのと同じです。まずはあなた自身がポジティブに理解しようとする心構えを持つことです。たったそれだけで、大きく進歩するチャンスが生まれるでしょう。

さて14期を迎えるにあたって、新たな目標を立てられたことと思います。さて、その目標は具体的で、しっかり達成できるものになっていますでしょうか。成功の三原則というのがあります。

第1に目標が明確になっていること。

第2にその目標を達成する期限を決めていること。

第3にそれを手に入れるために支払う対価を決めていること。

以上3点です。ご存知の方も多いと思いますが、これは世界的なベストセラーになった「思考は現実化する」で有名なナポレオン・ヒル博士が体系化した成功哲学の基本になっているものです。ちなみにこの成功哲学は世界中の成功者達の多くが実践したものです。(私も二十代の後半にこの成功哲学を学び、その後の人生観・労働観が大きく変わりました。)

また、皆さんが立てた目標はリアルに達成できるイメージを持っていますか?必ず達成できると思い込むことにとても重要なことです。思い込むことによって脳が自動制御装置となってあなたを成功に導くようになるのです。これは右脳研究と教育学の第一人者である、七田眞先生(教育学博士)が提唱している理論です。(私は過去数回七田先生に直接指導を受けたことがあります。残念ながら今年4月他界されました。)

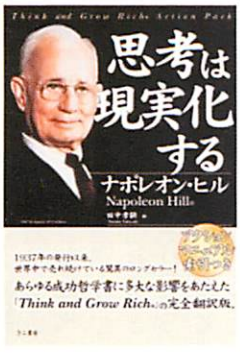
このように、目標を達成したり、成功するためには「コツ」というものがあります。基本的な理論を少し勉強してみるのも楽しいかもしれません。自己実現の歓びは大変大きなものです。(成功哲学や右脳開発に興味のある方は、一緒に学びませんか?ヒミツの勉強会をやります。)

さて、この14期、全社員にお願いしたいことがあります。それはいたってシンプルで「ケア革命を楽しもう」=「楽しんで働こう」ということです。働くことは楽しいんだという価値観を創造しましょう。既に楽しんでいる方は、もっと楽しんで、周りの人を巻き込んで楽しんでください。楽しめていない方は、「どうしたら楽しめるか」を考えてください。愚痴る前に楽しめる方法を考えて提案してください。決して他人のせいや周りの環境のせいにしないでください。

また、企業人として成功を収めたいという思いがある人は、来年の今頃、1年間を振り返り新たに貢献したことは何か。そして、これからの1年で新たに挑戦する貢献は何か。この問いに即答できる自分になっていてください。もちろん企業理念に沿っていることがもっとも大事なことですが。

最後に先に述べたナポレオン・ヒルをはじめ、現代の多くの成功哲学の源を作ったジェームズ・アレンの言葉から一節を紹介します。

もしあなたが環境が悪いと感じているのであれば、本当に悪いのはあなた自身である。真の純粋な幸せは清らかに非利己的に生きることで誰にも手にできるものである。



■代表作
「思考は現実化する」
ナポレオン・ヒル:著
田中孝顕:訳
きこ書房

■代表作
「原因と結果の法則」
As a Man Thinketh
ジェームス・アレン:著
坂本 貢一 :訳
サンマーク出版

Soushinkai News_01

【本物ケア学会】倉敷第一病院

最優秀賞：【ピアグループの形成とその関わり】
［発表者］中洲センター　三好津美江

社長特別賞：【創心流地域リハケアの視点でのアプローチ】
［発表者］笠岡センター　小林龍一・三谷晃子・鈴木啓吾

実行委員会賞：【失語症へのアプローチ～身近なものを使って～】
［発表者］本部センター　小谷英二

2009年5月17日（日）、職員一人一人の更なるスキルアップを目的に、自社内で初の試みとなる本物ケア学会が、倉敷第一病院にて開催されました。参加者は、170名にものぼり、午前中は大会長の原田　薫さんの挨拶から始まり、作業療法士の百田先生の特別講演が行われました。午後からは職員6名による症例発表、グループ別に行われたワークショップが行われました。普段知ることの出来なかった、他部門の取り組みについて学ぶことが出来たり、専門職としての匠の技やチームケアなどの本物ケアについて参加者全員で歓び、分かち合うことが出来て大変盛り上がりました。6名の症例発表後、参加者全員の投票により最優秀賞・実行委員会賞・社長特別賞が表彰されました。今回の記事では表彰された3名の症例発表を紹介します。

最優秀賞：【ピアグループの形成とその関わり】

［発表者］中洲センター　三好津美江

◎症例紹介

【T様】70代男性、パーキンソン症候群・腰部脊柱管狭窄症

S27年から俳句をされ、師範の資格も持っている。疾患の関係で歩行や書字に障害が出てきている。

【N様】50代女性、左視床出血・右視床出血の為、両上下肢麻痺

二度の視床出血の為、両上下肢麻痺となり、構音障害・嚥下障害もある。車椅子にてADLはほぼ全介助。わずかに動く左手で、最近、携帯が使えるようになり、親しい方に作成した詩をメールで送信している。

【A様】80代男性、パーキンソン病

東京の美大を卒業され、学校や塾で絵（洋画）を37年間教えていた。H20年自宅で転倒し、腰椎圧迫骨折とパーキンソン病と診断される。病気になってなかなか思うように身体を動かす事が出来なくなっていたが、昨年12月個展を倉敷市立美術館で行なう事も出来た。

【O様】70代女性、左脳内出血・右被殻出血

両側に麻痺があり、構音障害もある。左麻痺側が軽度であり、書道・家事等は左手でされている。陶芸・俳句・書道・生け花等、多方面にわたり意欲的に活動されている。

【I様】60代女性、脳梗塞後遺症、高血圧、糖尿病

左半身のしびれがあり、利用当初は家事全般に不安があった。実母の介護も重なり、多忙な毎日を送られていた。デイでは、何事にも積極的に取り組まれ、お正月のお花を活けられたり、網戸の掃除をされていた。また、他の利用者様にも気さくに声を掛けられ、周りの方を巻き込んでいろいろなことに挑戦されている。

［導き出された目標］

T様、N様、A様の3人の方は、ほぼ時期を同じくしてデイの利用になり、趣味・特技は各々違っているが、デイを利用されての感想やリハビリに対する思いを俳句、詩、絵画、書道で表現されている。それらをスタッフ全員で関わりを持ちながら、1つの作品集としてまとめていく。そして作品集を他の利用者様にも見ていただき、趣味・創作活動の輪を広げていきたいと考えた。そこで、皆さんに得意分野を活かした共同作品作りの話したところ、喜んで新たな作品の創作に係っていただけた。一緒に創る喜び、楽しみを持って今回の『道草』の制作となった。

［経過（サービス内容）］

ある日、T様が俳句を十句スタッフにあてて創って来られ、その句に感動し、それを他のスタッフに話しをしたら「紙に書いてフロア全体に掲示しよう。」という意見が出た。早速トイレの前やマシンの後ろなどに貼っていったところ、利用者様が興味を示されるようになった。元々創心句会に参加されていたO様が餅つきの風景を句にされ、T様にアドバイスをもらって一部を変えるということがあった。また、生まれてはじめて俳句をつくってみたというI様はT様と昼食時に親しく話されるようになり、俳名をつけてもらわれたり、アドバイスをしてもらわれたりして親交が深まってきた。今もフロアには、T様の句や、I様・O様の句が入れ替わり掲示されている。またある日、N様が中洲のお風呂で6年ぶりに湯船につかった感動の詩を作られた。3年がかりで打てるようになった携帯からスタッフの一人の携帯にその詩が届いた。その詩に他のスタッフも感動した。模造紙に書いて他の方にも見てもらう事にし、水圧の上に挿絵を入れた詩を貼り、水圧を待つ人、している人、皆に見てもらった。「いいねぇ。」という声も直接聞くこともできたし、「この詩を書いた人に会って話しがしたい。」と言う人もいた。書き写している人もいた。それをきっかけに一行詩だったり、退職するスタッフへの詩であったり、デイに来た時の感想の詩だったり、スタッフへの詩であったり、デイに来た時の感想の詩だったり、スタッフの携帯にZ様の想いが次々に入ってくるようになった。

A様はパーキンソン病の為、長時間同じ姿勢でいることも、身体が左に傾く為思うように好きな絵を描く事も出来なくなっていた。しかし殺風景なデイに1枚絵を描いて頂く事をお願いすると快く引き受けてくださりアッと言う間に『秋来る。』というテーマの絵が出来上がりデイは明るくなった。それは利用者様の目を引き、物静かなA様に声をかけられ、個展を倉敷市立美術館まで観に行かれた利用者様もいた。そして前述した俳句を作られたO様には、麻痺のある左手で『日本一不親切な親切』と筆で書いて頂いた。T様・O様・I様の俳句、N様の詩、A様の絵、O様の書と次々に個性のあふれる作品が集まってきた。「それを一冊の作品集としてまとめたらどうだろう

か?」というスタッフの意見があがった。そこで皆様の了解を得て早速、詩・俳句の選考をスタッフ全員で行い、全員で取り組む事にした。

[結果・成果]

作品集第一号として表題は、皆さんの意見を取り入れて『道草』に決定した。これは幼い時、道草が大好きだったO様が考えられた。障害があるという事は人生の道草かもしれないと思えたからである。題字もO様に左手で書いていただいた。さし絵はA様にお願いし、A様の作品の中から選ばせていただいた。30数年間、学校で編集を担当しておられたA様にアドバイスを頂きながら編集した。こうしてたくさんの人の関わりから作品集『道草』第一号が出来上がった。デイのテーブルの上に置いて他の方にも見ていただき、そこで会話が増え仲間が一人、二人と増えてきている。詩や、俳句は出来なくても「『自分史』を書いてみよう。」と言われる方もおられる。このように作品を通してお互いを認め合い自分を表現する場が提供できていると考える。

[まとめ・考察]

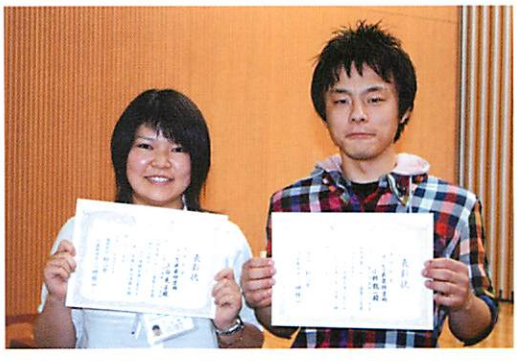
10人には10通りの人生があり、特別な才能がなくても、主婦として家族を守る為に苦労された人や、生涯一つの事に打ち込んでこられた人など様々だ。デイサービスでは価値観も違い、環境も違う人たちが偶然同じ場所に集まり、生活を共にしている。そこから新たな関わりが生まれて来ている事は素晴らしいと思う。その関わりを作るのが私達の仕事の一つではないだろうか。「リハビリを行なう事でしっかりと自分の足で歩いて景色を見て、たくさん俳句を作り続けたい。」というT様。「好きな絵を描き続けたい。」というA様。『恐れや不安で身体は固くなっていた　私はこれからどうなってしまうのだろう　近い未来を考えては涙していた　身体はますます固くなっていた』と書かれていたN様の詩には最後『1234明るい掛け声につつまれた　固くなった足は元気をもらっていた　固くなった指は一本一本伸ばされた　あきらめない、その時思った』と締めくくられている。リハビリを必要とされている方々全てに私たちが深く関わり、知識と技術、そして心を提供し続けていきたい。こうして皆の力により『道草』第1号が完成した。これからも第2号、第3号と続けていこうと思う。このようにデイサービスで自分を表現する場として活用して頂き、またそこに新たなピアグループの形成が出来るように中洲センターはスタッフ一丸となって支援していきたいと考えている。

社長特別賞:
[創心流地域リハケアの視点でのアプローチ]

[発表者]笠岡センター
小林 龍一・三谷 晃子
鈴木 啓吾

◎症例紹介

男性60代、疾患:脳出血後遺症右片麻痺、失語症、空間無視
社会情報・要介護3



[導き出された目標]

「家での役割の獲得」
「生活範囲の拡大」
経過(サービス内容)
H20年7月奥様と笠岡センター見学
H20年8月:月・水
2/W(3・4h)で利用開始
H20年9月:月・水
2/W(6・8h)に利用変更
H20年10月:月・水・木
3/W(6・8h)に利用変更
H20年11月:
・要介護3から要介護2に更新

症例は脳出血後遺症により発症前の生活と全く違う生活感覚に戸惑っている中でのデイ利用となった。生活感覚の戸惑い、これはまさしく元気がなくなる7つの理由の一つである。また、創心流地域リハケアの視点はPoint1～8、及び終末期まであり、アプローチを実施していくためには元気がなくなる理由を排除しながらのアプローチが必要だと考えた。そこで、退院後の家庭内での生活を伺うことから始めた。そこから見えてきたのは、症例の「家での役割」がなくなっているということだった。家族の方は「危ないから」、「遅いから」という理由で何でも症例の身の回りのことを実施している状況であった。発症前はもちろん仕事も趣味である旅行も不自由なく楽しまれていたとのこと。また、皿洗いや洗濯物をたたむといった家事の手伝いもされていたとのこと。生活感覚のとまどいを排除するために、まずは創心流地域リハケアのPoint1である生活主体者としての心構え＝心創りと、Point2であるエンパワーメント的環境整備に着目した。そこで私たちは、家族の方に対して、動作が遅くても症例ができることは実施していただくようにお願いした。家族の方にも協力して頂きながら、次第に生活主体者として、生活が安定して継続してできるようになってきた。生活が安定するに従い、「この動作はどうすればええ?」、「どうすればもっとうまくできるじゃろうか?」といった創心流地域リハケアのPoint4である環境適応能力の質的向上、Point5の生活行為・動作能力の向上の視点に切り替わってきた。症例の現在の動作を確認しながらデザイナー、療法士による個別訓練で最小限の努力で動作ができる訓練を繰り返した。その際、Point6、7を意識して、同じような身体状態の方や、症例より身体状態が良好な方と一緒に訓練を実施していただいた。現在もPoint6、7を中心にデイで訓練に励んでいる状況である。

[結果・成果]

訓練やアプローチを実施した結果・成果としてまず、メンタル面の改善がみられた。デイ利用当初は送迎時やデイ中に時折「帰りたい」、「行きたくない」という言葉が聞かれたが、利用を重ねるに連れて消極的な言葉は聞かれなくなった。また、リハビリに対して必要性を感じて頂き、「やらないといけない」という言葉を多く聞かれるようになった。症例自ら「やらないといけない」と思って頂けるような心創り、環境整備は生活する上でも必須項目であるため、スタッフ間、家族、ケアマネとの情報の共有、提案はとても重要だと感じた。今回の症例は仕事柄体力が必要な職種で、症例の生活体力はあったためPoint3の生活を継続させる体力の向上の部分に対してのアプローチは重視しなかった。それでも、家で、デイで動く機会が増えたことによって必然的に体力も向上していったように感じる。症例の生活継続要素は、生活感覚の戸惑いの理由を排除する、家族の方に提案をするという形で基礎が創りあげることができたと思う。基礎が創られた症例は日に日に改善がみられ、身体面に於いては関節可動域の拡大、下肢筋力の向上、右半側の柔軟性の向上、動作面では歩行速度の向上、立ち上がり動作の向上、床からの立ち上がり動作の獲得といった結果・成果を上げることができた。また、以前は家族の

方から「転倒した」という報告を受けることが多くあったが、転倒、転落といった事故報告を受けることもなくなった。良質な循環サイクルが形成されると、自主訓練を自ら励まれるようになり、スタッフの介助が必要なく、できるようになってきた。また、症例は他者との関わりを好み、症例から積極的に声を掛けて会話しており、いつも周りを明るい雰囲気にさせて頂いた。リハビリを継続し、成果が現れるに連れて他の利用者様をリハビリへと誘い、時にはリハビリの必要性を他者へと発信して頂き、自分自身だけではなく他者をも巻き込んでリハビリを実施していった。心も身体も初来所された時とは比べものにならない程、向上した。それに伴い、家庭での変化は

❶家族と一緒に旅行に行けるようになった
❷畑に行き、作物の収穫を手伝える
❸自分から洗濯物を取り込むようになる
❹奥様と毎日近所周りを散歩できる

が挙げられる。家での役割はもちろん、生活範囲が広がった。以前は行きたくともなかなか行けなかった旅行や家事の手伝いができなかった症例が洗濯物を取り込むようになった。これはただ単に身体能力の向上だけではなく精神面が大きく変化した結果だと考えられる。リハビリに対する必要性を感じて頂き、リハビリに真剣に取り組む姿勢、行動から生まれた成果だと考える。また、スタッフの利用者様に対する声掛けが、利用者様の前向きに取り組むリハビリに強く繋がることが感じられた。プラス発想、喜びの共有する声掛けを忘れず一瞬の出来事、表情を見逃さずに気持ち良くリハビリに取り組んで頂けられるようにスタッフが明るく声掛けが大事だと感じた。

[まとめ・考察]

地域リハケアの視点を理解したうえでアプローチおよび訓練を実施する上でとても重要になってくるのは、対象の方を知る努力を惜しまないことだと考える。人は性格、考え方など人それぞれであり、まずは対象者の全てを受け入れることがアプローチ前の大前提だと言える。そして見えてきた課題や要望、ニーズを統合して初めて、地域リハケアの視点でアプローチしていく事が、心に添ったケア、すなわち創心流本物ケアではないだろうか。そのためには、個々のスタッフは元気が出ない理由および創心流地域リハケアの視点をしっかり理解把握しないといけないと考える。また、創心流地域リハケアの視点は利用者様だけの視点ではなく、我々スタッフにもいえることではないだろうか。Ｐｏｉｎｔ１の心創りは仕事をする上での心、相手に寄り添う心・・・心が出来ていないと、利用者様に対して心創りは出来ないと考える。Ｐｏｉｎｔ２の環境は働く環境、歓働環境ができることによりスタッフは楽しみ、歓び、嬉しさ、悔しさといったことを共有でき、創心會で「働く」ことを感じられると思う。

実行委員会賞：失語症へのアプローチ ～身近なものを使って～

［発表者］本部センター
小谷 英二

このようにＰｏｉｎｔは利用者様のみでなく創心會で働く全スタッフが対象になるものであると考える。創心流地域リハケアの視点を全スタッフが理解把握すれば会社目標である「ケア革命」の実現はそう遠くないと考える。

◎症例紹介
K氏 男性 68歳
脳出血・右麻痺・失語症

[経過（サービス内容）]

❶日常会話能力へのダイレクトアプローチ
（方法）身近な出来事やエピソードを日記に書き記す・音読する・会話をする。
（内容）
①選択式と記述式を組み合わせ
②体調と気分の自己評価
③食事内容と起床・就寝時間
④鑑賞したテレビ番組
⑤話す・聴く・読む・書くなどの項目欄
⑥外出先の場所や建物の名前
⑦思考能力課題・知的柔軟性・連想・生き字引課題

❷非流暢性発話へのダイレクトアプローチ
メロディックイントネーション（以下：ＭＩＴ短い句や文を簡単な音楽的パターンにのせて発話させる）の導入。
（方法）
①なじみのある曲・知っている曲を選択
②立位姿勢で立位バランスを保つ
③構音の準備運動
④腹式呼吸と発声練習
⑤復唱しながらの音読
⑥歌唱　（妻によるピアノ伴奏）
⑦歌の季節感・思い出について回想

[まとめ・考察]

失語症者の言語表出の特徴として、自由にあやつることのできる言語レパートリー（分野）と言語バリエーション（種類）が減少・消失することがある。経験場面などで自分なりのコミュニケーションを取り戻す作業をしていくことで改善されてくると思います。また何よりも失語症者が相手に何かを伝えたいという主体的な気持ちに導く訓練スタイルを提案していくことが大切だと思います。日常会話能力へのダイレクトアプローチでは、コミュニケーションツール（日記）を使ってインプット（入力）した情報をアウトプット（出力：書く・読む・会話）することで語彙能力（親近語）の把握と相手に伝える手段・方法の獲得することができました。普段どんな想いで毎日を送っておられるか、伝えきれない心の状態を察することもできるようになりました。非流暢性発話へのダイレクトアプローチでは、ＭＩＴ療法により、呼吸・発声バランスの安定や発話明瞭度の向上、嗄声の軽減、抑うつ気分の改善、そして妻と共感し合う音楽という共同作業による孤独感の軽減に導くことが可能になりました。コミュニケーション（心の交流）を楽しむことへ失語症者が自主能動変換していくことで心豊かな生活に繋がることを実感することができました。そして訓練以外の家庭というバックグランドにコミュニケーションの質や量、環境などの全体像を捉えることが大切であり、訓練によって回復した能力を実際の日常生活で、使えるように常に意識していきたいと考えております。

[結果・成果]

❶日常会話能力へのダイレクトアプローチ
①生活習慣（食事・起床と就寝）を見直す事ができた。（生活習慣の修正）
②日常体験を記録することで生活に張りができてきた。（より良い体験をしようとする）
③必要な事柄を取り出して思考をまとめることができた。（思考の整然化）
④選択式を組み合わせることで書字能力の負担がなくなる。（負担の軽減）
⑤自主課題として書字訓練・音読訓練を設定することができる。（訓練量の確保）
⑥知的柔軟性・連想・生き字引による思考作業ができた。（思考能力の向上）
⑦自分発見・価値判断・学習意欲が出てきた。（自分らしく生きる）

❷非流暢性発話へのダイレクトアプローチ
①夫婦間での共同作業（孤独感を軽減）
②1句文の長さが等しい4拍子で表出することで言葉が明瞭化された。（発話明瞭度の向上）
③歌のアクセント・ピッチによる抑揚の変化（強弱・高低の緩急）
④喉の緊張感を取り声帯を太くさせ発音がクリアになった。（嗄声の軽減）
⑤呼吸と発声のバランスがよくなり持続した発声ができた。（発声持続の向上）
⑥歌にまつわる思い出を話し合う。（回想）
⑦表情の変化がみられた。（うつ気分の軽減）

［まとめ・考察］

失語症者の言語表出の特徴として、自由にあやつることのできる言語レパートリー（分野）と言語バリエーション（種類）が減少・消失することがある。経験場面などで自分なりのコミュニケーションを取り戻す作業をしていくことで改善されてくると思います。また何よりも失語症者が相手に何かを伝えたいという主体的な気持ちに導く訓練スタイルを提案していくことが大切だと思います。日常会話能力へのダイレクトアプローチでは、コミュニケーションツール（日記）を使ってインプット（入力）した情報をアウトプット（出力：書く・読む・会話）することで語彙能力（親近語）の把握と相手に伝える手段・方法の獲得することができました。普段どんな想いで毎日を送っておられるか、伝えきれない心の状態を察することもできるようになりました。非流暢性発話へのダイレクトアプローチでは、MIT療法により、呼吸・発声バランスの安定や発話明瞭度の向上、嗄声の軽減、抑うつ気分の改善、そして妻と共感し合う音楽という共同作業による孤独感の軽減に導くことが可能になりました。コミュニケーション（心の交流）を楽しむことへ失語症者が自主能動変換していくことで心豊かな生活に繋がることを実感することができました。そして訓練以外の家庭というバックグランドにコミュニケーションの質や量、環境などの全体像を捉えることが大切であり、訓練によって回復した能力を実際の日常生活で、使えるように常に意識していきたいと考えております。

作業療法士 百田 貴洋 先生

一人一人の熱さ、想いをすごく感じました。こんな想いのつまった発表・文章・写真に出逢えた事は私の人生において初めてです。本当にありがとうございました。

★多くの方々に支えられてこの賞を頂きました。特に作品集「道草」に詩や俳句や書字、絵を寄せてくださった利用者様が我が事のようにとても喜んでくださいました。皆様から大きな力を頂いております。本当にありがとうございます。

中洲センター 三好 津美江さん

★御利用者様を支えている家族、ケアマネージャーの林さん、OTの多賀さん、本部のデイスタッフの協力のお陰でこのような賞がとれました。本当にありがとうございました。

本部センター 小谷 英二さん

★受賞したことを、ご利用者様にえるととても喜んで下さいました。ご利用者様の「楽しく生きたい」という強い想いを今後も家族を巻き込み、チームで支えていきたいと思います。

笠岡センター 三谷 晃子さん

★センターで一つのものを作り上げ、更に賞まで頂けるとは光栄です。この喜びを共感できるスタッフ、利用者様に感謝しています。ありがとうございました。

笠岡センター 鈴木 啓吾さん

★このような重賞を頂きましてとても感激致しました。また、笠岡センター全スタッフと、感動を共有することが出来ました。これを自信へと繋げ今後に活かしたいと思います。ありがとうございました。

笠岡センター 小林 龍一さん

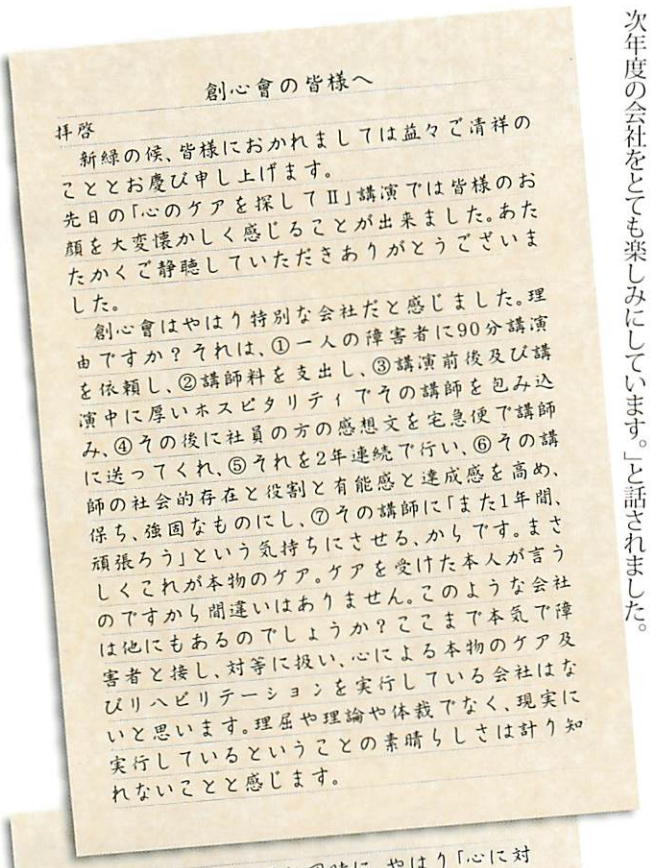
倉敷第一病院様をはじめご関係各位の皆様
ご理解、ご協力まことにありがとうございました。
そして受賞者のみなさんおめでとうございます。
また今回惜しくも受賞を逃したみなさんの
健闘を称えます。お疲れ様でした。

Soushinkai News_02

【心のケアを探して Ⅱ】
株式会社ケアプラネッツ代表取締役 葉山靖明様
【新入社員歓迎会】
岡山市下庄「やま幸」

平成21年3月28日、岡山市下庄にあるやま幸にて、株式会社ケアプラネッツ代表取締役葉山靖明氏による講演会と新入社員歓迎会が開催されました。「ただいま」の言葉で始まった講演会には26名の新入社員と147名の社員が出席しました。「心のケアを探してⅡ」と題して約90分にわたり行われた講演会では「人の心を動かすのは言葉（言語）ではなく非言語であると思います。心の範囲は言葉では表せないもので、言葉で考えるのでは範囲が少ない。考えるのではなく感じてください。感じて動くというのは大切なことです。心に添ったケアとはそういうものということを新入社員の方も心にとめておいてください。」と新入社員の方にエールを送って下さり、また「リハビリテーションでいう介護ということで言いたいのは、必ずこの会社がしていることは必要なことで、介護保険が始まって10年、これから更に必要になってくる分野だと思います。今は到達点であり、そして新たな出発点であるように感じます。出発点の点、核となる大きな点と感じます。その中でこれだけの規模でこれだけの会社をしているということはまさに核となると思います。次年度の会社をとても楽しみにしています。」と話されました。

講演会と歓迎会に参加された新入社員の方々も「当事者だからという考え方にどこまで近づけるかと考えます。共感してとよく言われますが、共感する。という意味を勉強していきたいと思います。一生懸命取り組むことと、諦めないことをこれからの目標にして、この一年は自分の長所を100見つけることに取り組んでいきたいと思います。」（訪問看護ステーションOT 石井 裕子さん）「障害を持った方に対する私のイメージと根本的に違っていて明るく話されていることが印象的でした。OTとしての技術だけではなく、マナーやメンタル的な心創りがしっかりできて、いずれはトップを目指したいです。」（訪問看護ステーションOT 新谷 章文さん）「失語症があるのにあんなに話されていて私が知らないだけですごくリハビリをされたんだろうなと感じました。自分が元気で周りにいる方々に元気をわけられるように、まずは挨拶だと思うので毎日の挨拶を心掛けて行きたいです。」（リハビリ倶楽部築港 國貞美奈さん）「笑顔で体験を話されていることが衝撃でした。そういう笑顔が創れるOTになりリハビリをしていきたいと思います。この一年は自分自身が大きく変わるチャンスだと思っています。デイサービスでの関りや目標を持って取り組むことで、悔しさを感謝にかえてOTとして出来るように頑張って行きます。」（リハビリ倶楽部笠岡 西江 勇太さん）と講演会の感想と今後の抱負について語って下さいました。



創心會の皆様へ

拝啓
新緑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
先日の「心のケアを探してⅡ」講演では皆様のお顔を大変懐かしく感じることが出来ました。あたたかくご静聴していただきありがとうございました。
創心會はやはり特別な会社だと感じました。理由ですか？それは、①一人の障害者に90分講演を依頼し、②講師料を支出し、③講演前後及び講演中に厚いホスピタリティでその講師を包み込み、④その後に社員の方の感想文を宅急便で講師に送ってくれ、⑤それを2年連続で行い、⑥その講師の社会的存在と役割と有能感と達成感を高め、保ち、強固なものにし、⑦その講師に「また1年間、頑張ろう」という気持ちにさせる、からです。まさしくこれが本物のケア。ケアを受けた本人が言うのですから間違いはありません。このような会社は他にもあるのでしょうか？ここまで本気で障害者と接し、対等に扱い、心による本物のケア及びリハビリテーションを実行している会社はないと思います。理屈や理論や体裁でなく、現実に実行しているということの素晴らしさは計り知れないことと感じます。

ケアは身体に対してと同時に、やはり「心に対して」が重要と私は捉えます。弱い人間には相手の心がよく見えます。不思議なくらいよく見えます。だからこそ相手の心に介護されるのです。そして、リハビリテーションの面から考えると更にそうです。作業療法に「心」が絶対的に必要ということは改めて言うまでもありません。お手紙で数多く評価していただいた「ココロが動けば、カラダも動く！」の言葉が然りです。
「強い優しさ」。講演でも述べましたが、それは、非常に難しく、かつ尊いものです。それを実行、実現され、「強い優しさ」を大きくしておられる。そのことにより、どれだけ多くの高齢者・障害者が救われるかは自明の理です。
「強い優しさ」は「人類の進化」です。それを実現されている倉敷の創心會の皆様をこれからも九州から応援させてください。

敬具

平成21年5月4日

株式会社　ケアプラネッツ
デイサービスけやき通り
施設長　葉山　靖明

葉山社長よりお礼状を頂戴しました。

Rehabilitation Column

【大石常務】

若いころの苦労は買ってでもしろ!!

「有難う」という字は面白い。難が有ってなぜ有難いのか？困難が与えられて、それを乗り切ることによって力が付くから、有難いのか。周りを見渡すと「難」ばかり有って、大変有難い。

【世界経済】

自由貿易体勢に亀裂が走ったのは、米国発の金融危機だ。07年夏に表面化した米国の低所得者向け住宅融資「サブプライムローン」の焦げ付き問題は世界で株安や金融機関の経営悪化などの混乱を招き、貸し渋りや消費者心理の悪化などを通じて、実体経済の悪化に繋がった。特に08年9月の米証券大手リーマンブラザーズの経営破たんをきっかけに、金融市場は機能不全に陥り、世界の経済活動に悪影響が広がった。それ以降、金融危機は世界に拡散して深刻化し、各国は景気の悪化に歯止めをかけようと、自国産業の保護策に乗り出した。保護主義的な施策をすべて「悪」と切り捨てられないところに、この問題の難しさがある。国民から選ばれた政権や議会が自国の産業を保護するのは当然の行為と言える。金融危機はこれからも続き、経済は縮小する。その上、新型インフルエンザが追い討ちを掛ける。

【国内経済】

企業の業績不振、賃金の抑制、失業者の増大、消費の低迷と悪循環が続く。失業率はうなぎのぼりである。昔から日本は加工貿易の国と言われ、資源を輸入して付加価値をつけて輸出するのがお家芸だった。だが、この物づくりが苦境を長引かせる。資源は中国、インド、ブラジル、ロシアなど新興国の需要が拡大し、供給不足となっている。必然的に資源の囲い込みにより、安い資源はもう手に入らなくなった。占化され売り手市場となった資源は、言い値で買うしかない。利益はすべて資源国に持っていかれてしまう。しかも、液晶はじめ、日本が得意とする技術も他国がまねできるようになっている。製品の値段は競争上、上げずらいのが現状だ。安い資源を買って高い製品にして売るという構図が、高い資源を買わされて、安く売るしかなくなっている。海外への輸出をけん引役として景気回復を続けてきた日本経済にとっては、打撃は甚大だ。内需を増やそうにも、将来への不安や若者の意識変化、少子化でそう簡単ではなさそうだ。

【国の施策】

最近の国の施策を見ていると、社会保障の充実が声高に叫ばれ、マスコミの論調も消費税など負担増に真正面から切り込む報道が目立つ。今回の介護保険改定では、介護人材確保のために、3％が上乗せされ、また補正予算で増額されそうだ。不景気で、余剰となった人員を、不足している介護にシフトさせる補助金も数多い。しかし、思いのない人が景気の谷間のつなぎに、いくら集まっても、つなぎでしかない。国の財政事情は苦しい。基本的に、日本の医療や介護保険は、4割強前後を公費でまかなっている。欧米の社会保険方式をとっている国は、保険料が8割～9割を占めていることからすると皆保険制度を維持できるという名分はあるものの、4割を占める公費を制約せざるを得ない。選挙も終わって、景気も回復してくれば、人は去り、予算は削られる。介護報酬3％の引き上げについてはいろいろな評価があるようだ。全体として加算の積み上げで個々の事業者を評価する体系に軸足を移している。人員配置や機能等、各事業者の取り組みによって格差が広がっていく。幸い、当社は数字的には順調に業績を伸ばしてきたように見える。しかし、目の前に多くの問題を抱え込んだ「現実」が存在するのも事実。規模拡大に伴い、当社の介護保険事業部門は組織的にも過渡期を迎えている。倫理観、モラルの低下に危機感を持たねばならない。モラルの低下が、行っているサービスを冷静に分析する力を奪い、サービスの現状や周りの同僚の働きに鈍感になり、自分たちの現状に満足してくる。理念や理想の無いサービスは薄っぺらいものになる。底の浅い、見せかけだけのサービスはこれからの時代、誰からも支持されなくなる。

「武士道とは死ぬことと見つけたり」で有名な「葉隠れ」の中に次のような項目がある。

【只今其時、其時只今】

その時が只今とは、平常時と緊急時とは同じであって、分けて考えるべきではない。平常時に備えておかないと、いざという時、役に立つことができない。介護業界は社会に関心をもたれており、順風と考える人もいる。この時期にこそ、専門性を高め、当社らしいサービスとマネージメントの向上に努めねばならない。みんなが目指す、理想のモデルを作らないと、介護業界はまた元に戻ってしまう。それが「ケア革命」というテーマだ。創心會は原石ではあるが、介護業界のリーダー、注目される宝石でありたい。宝石は原石のままでは価値が出てこない。磨かれてこそ価値が増す。宝石は人間に比べればまだいい。いつの日か発見されれば、価値を発揮できるからである。その点人間は駄目である。のんびりしていると、死んでしまって灰となり土に帰っていく。宝石は磨けばピカピカに光ってくるが、人間の脳みそは磨けば磨くほどしわが寄ってくる。ツルツルとしたのっぺらぼうの脳みそでは何の働きもしてくれない。「ケア革命」のプロセスは、一面、あなたのためでもある。「サービスの学び」とは、その現実を受け入れながら理想に一歩でも近づく努力そのものと考えたい。私たちが社会にあって、どう生きていくのかという人生勉強なのだ。「若いころの苦労は買ってでもしろ」とは、「有難う」と同義語だ。

Rehabilitation Column

交通事故撲滅に向けて
「訪問リハビリ部門・交通事故対策委員会の取り組み」
歓びの道【私の感動体験】
受賞の歓び

❶本部センター 訪問リハビリ部門 渡部 あさみ
❷岡山センター 訪問看護 阿部 セツ子
本部センター 訪問看護 横山 登岐子

リスク管理が特に重要視される業界での自動車運転事故に対する取り組みとして、訪問リハビリテーション部門（交通事故対策委員会）での活動を紹介させていただきます。

まず漠然と、事故を減らすにはどうしたら効果的なのかを考えました。特に訪問リハ部門は100％社有車を使用する部門なので、事故発生率も高い状況が続いていました。その中で皆が萎縮せずに訪問でき、さらに事故を減らす方法を考えました。それが、基金の設立につながりました。基金設置の目的として、❶出資者が業務中に起した交通事故に対して、修理費用の一割を出資金の中から㈱創心會に支払うこと、❷創心會業務中での交通事故の撲滅を掲げ、定められた期間ごとに委員会で定めた期間に寄付を行い、地域社会への貢献を挙げています。出資していただいたスタッフは、二つの大儀のために意識改革が出来ており、「交通事故」という言葉に以前より敏感になっていると感じています。13期上期では、事故は発生したものの修理費がかかっておらず、県交通安全対策協議会（岡山県交通遺児就学援助資金）の受付窓口である倉敷警察署へ、満額36,000円寄付が出来ました。このような活動を通じ、訪問リハビリテーション部門から全社へ発信し、交通事故ゼロを目指したいと考えております。

「私の感動体験❶」
訪問リハビリ部門 渡部 あさみ

私が担当させて頂いているご利用者様で、脳梗塞にて右片麻痺があり、寝たきりの状態の方がおられます。著しい言語障害があり、コミュニケーションはジェスチャーが主です。ご本人様が"出来ること"を考えリハビリをさせて頂いてます。そんなある日、奥様が部屋に来られ「お父さん、○○さんちのご主人が亡くなられた。香典いくら包む？」とおっしゃいました。ご利用者様は大きく手をあげ、指を3本立てられました。「ありがとう。3千円包むわ。」と奥様は出ていかれました。またある時「お父さん、留守番頼んだよ。」と出ていかれ、帰宅後に電話があったか聞かれました。ご利用者様が手を横に振られると「ありがとう」と微笑まれました。ご利用者様は寝たきりの状態ではありますが、奥様にはいつまでもその家の主であり、ご利用者様には主という立派な役割がありました。介護に疲れるけど、お父さんはお父さんだと笑っておられる奥様の愛情に、本当に感動しました。

次の推薦者は、本社訪問リハビリの石井裕子さんを推薦します。石井さんはとても素直で、小さな事にも感動できる素敵な心を持っているからです。

「私の感動体験❷」
岡山センター 訪問看護 阿部 セツ子

最近ターミナルの御利用者様と関わることが何度かありました。その内のある利用者様は全身浮腫でむくみが強い状態であるにも関わらず、ポータブルトイレで排泄をされたり、入浴もしたいと最期に訪問入浴を1度利用して入浴をされた方もいらっしゃり、非常に生活に対して前向きな姿勢にいつも感動していました。また御利用者様がベッドに寝た状態でも化などが見えるようにご家族が工夫されたりと、ご家族の献身的な姿にも感動させられています。このような機会を通して、自宅で御利用者様が最期を迎えるために、最期までその方らしさを持ちおだやかに生活ができるような環境を、ご家族を中心につくっていくお手伝いが訪問看護として今後もできればと感じました。また医療が関わる上でもそのような安心していただける関わりや安心感がもてるような看護をしていきたいと感じています。

次の推薦者は、琴浦センターの荻野由紀子さんです。推薦理由は、細かい仕事ぶりで、目の向け方や働きかけをもっと知りたいと思うからです。

「受賞の歓び」
本部センター 訪問看護 横山 登岐子

5月12日に岡山県医療事業功労者表彰が看護の日にありました。看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養師、事務職の方々総勢15名でした。私は看護師として知事表彰と山陽新聞事業団表彰を受賞しました。受賞者された人は各々の専門職として長年医療現場で活躍、後輩の指導に携わった方で現在も勤務されています。この賞は看護の専門職として長年の業績が認められ結果で本当に嬉しく思います。看護師になった頃は昼夜を問わず辛いこともありましたが、自分のやりがいと思っている外科系に多く勤務させてもらったので看護の道に繋がっていると私自身思っています。仕事と人との繋がりは大切であり信頼関係も多くの人とできました。創心会で勤務することが出来たので一新地域の人と共に歓び合える仕事をしていきたいです。その為にも信頼される看護師でなければならないと思っています。信頼される看護師になるには不十分な点があると思いますのでこれからもご支援、ご指導をよろしくお願いします。

Rehabilitation Column

【実践調理】

「リハビリ倶楽部陵南の取り組み」

近藤 理裕・吉原 雄介・小橋 美里

陵南センターでは現在、隔週土曜日実践調理を行なっています。来られた日の昼食をご利用者様主体で作って頂いています。ですので、メニュー決めから材料決め全てご利用者様と一緒に考えていきます。

現在までに作ったメニューは40種類以上で和・洋・中さまざまです。男性の方、片麻痺の方も全ての方へできる事を提案し、できる調理工程へ参加して頂いています。

（ご利用者様の声）

①ご利用当初男性だという事から調理を遠慮されていた方がいました。しかし慣れてこられできる事が増えてくるにつれ「次は何をしようか」「何でもするよ。言ってよ!!」と積極的に楽しんで参加されている姿が印象的です。

②右片麻痺の女性の方は、包丁は持てませんがスタッフの提案でキッチンバサミを使用して野菜のカットなどをして下さいます。出来上がりを喜ばれ完成品を「ほんとに美味しい」「又作りたい」と言って下さいます。

③元料理人の方もご利用されており、自分の経験を活かせる事に生きがい・役割を感じられてプロの目線から細かにアドバイスをして頂いています。土曜日の実践調理を楽しみに来られ、又ご自分の出来る事を積極的にされ、何名かの方は役割を理解され動いて下さるようになり私達自身驚き、感動を覚えています。今後の取り組みとしては、現在栽培している野菜を使ってのメニューをご利用者様と考案していけたらいいなと思います。

（収穫が出来るかいなかは未定です。）

ニューフェイスのご紹介

3月より入社し、創心会倉敷本部居宅で介護支援専門員として働くことになりました坂本健二です。出身は広島県因島市で、今は尾道市と合併をするほど過疎化の進んだ田舎の島です。福祉の経験としては、尾道市の福祉村という複数の福祉事業所が一つの区域にまとまった一画の特別養護老人ホームで2年、以後、福山の医療期間の慢性期で介護療養型施設にて5年、その他、ボランティアで老人保健施設に介護老人保健施設に介護士として働いており、この度ご縁があって創心会で働かせて頂けるという事で、今までの経験を少しでも活かしながら、創心会の理念や方針に添って、ご利用者様へ少しでも早く、信頼されるような支援が出来るように努力したいと思います。倉敷市へは妻の理解もあり、家族と一緒に引っ越してきたので皆で一から頑張ろうと決意を新たにしています。入社後から今に至るまでは、本部の皆様、居宅の先輩方よりとても親切丁寧に教わっており、歓働環境に恵まれている事をうれしく思っており、心創りの基本であり、創心会の理念でもある「心に添った本物ケア」について、リハビリ（全人的復権）を主体とした考えを学んでいる毎日で、職員としても、個人的にも人間的成長をさせてもらっている事に感謝しています。又、ご利用者様に本物ケアを提供できるよう、直接かかわる職員もそうでない職員も、全ての部門職員の協力によって創心会全体の風土創りのため、この機関紙が創刊されたことにも感動しました。

2月から創心会リハビリ倶楽部築港（現在は東岡山）で働かせて頂いております小竹宏治です。私は29歳の時に介護職へ転向し、今までに特養で3年半、グループホームに1年半勤めてさせて頂きました。これまで、入居施設で働いた経験しかありませんので、通所という施設のサービスはどのようなものなのか、またリハビリというのはどの様な事をすれば良いのか全く想像がつきませんでした。入社して3か月がたちようやく雰囲気に慣れてきたところです。不慣れな私に懇切丁寧なご指導をして下さる先輩方にはたいへん感謝しています。今後も先輩方に教えを請いながら、ご入居者様に喜んでいただけるサービスを提供できるようなスタッフに早くならなければと思っています。運営理念である「心に添った本物ケア」にはまだまだ程遠い私ですが、創心會の社員として恥ずかしくないケアができるよう努力をしてまいりますので、今後ともご指導をよろしくお願い致します。

ニューフェイスのご紹介

3月より入社し、創心会倉敷本部居宅で介護支援専門員として働くことになりました坂本健二です。出身は広島県因島市で、今は尾道市と合併をするほど過疎化の進んだ田舎の島です。福祉の経験としては、尾道市の福祉村という複数の福祉事業所が一つの区域にまとまった一画の特別養護老人ホームで2年、以後、福山の医療期間の慢性期で介護療養型施設にて5年、その他、ボランティアで老人保健施設に介護老人保健施設に介護士として働いており、この度ご縁があって創心会で働かせて頂けるという事で、今までの経験を少しでも活かしながら、創心会の理念や方針に添って、ご利用者様へ少しでも早く、信頼されるような支援が出来るように努力したいと思います。倉敷市へは妻の理解もあり、家族と一緒に引っ越してきたので皆で一から頑張ろうと決意を新たにしています。入社後から今に至るまでは、本部の皆様、居宅の先輩方よりとても親切丁寧に教わっており、歓働環境に恵まれている事をうれしく思っており、心創りの基本であり、創心会の理念でもある「心に添った本物ケア」について、リハビリ（全人的復権）を主体とした考えを学んでいる毎日で、職員としても、個人的にも人間的成長をさせてもらっている事に感謝しています。又、ご利用者様に本物ケアを提供できるよう、直接かかわる職員もそうでない職員も、全ての部門職員の協力によって創心会全体の風土創りのため、この機関紙が創刊されたことにも感動しました。

2月から創心会リハビリ倶楽部築港（現在は東岡山）で働かせて頂いております小竹宏治です。私は29歳の時に介護職へ転向し、今までに特養で3年半、グループホームに1年半勤めてさせて頂きました。これまで、入居施設で働いた経験しかありませんので、通所という施設のサービスはどのようなものなのか、またリハビリというのはどの様な事をすれば良いのか全く想像がつきませんでした。入社して3か月がたちようやく雰囲気に慣れてきたところです。不慣れな私に懇切丁寧なご指導をして下さる先輩方にはたいへん感謝しています。今後も先輩方に教えを請いながら、ご入居者様に喜んでいただけるサービスを提供できるようなスタッフに早くならなければと思っています。運営理念である「心に添った本物ケア」にはまだまだ程遠い私ですが、創心會の社員として恥ずかしくないケアができるよう努力をしてまいりますので、今後ともご指導をよろしくお願い致します。

Rehabilitation Column

【生活力デザイナー】プロジェクト委員

創心會の皆様へ

岡山センター　管理者　松尾 祐作

山西 孝彦

生活力デザイナープロジェクトが発足して早くも二年が経過しようとしています。新入社員を含めると総勢50名ほどが生活力デザイナー3級の資格を取得されました。生活力デザイナープロジェクトは、創心會の目指す「本物ケア」の推進を目的として発足しました。「本物ケア」を実践する中で重要な視点のひとつに、「リハビリテーション理論」の理解があります。そもそもリハビリテーションとは「身体的な機能回復訓練のみにとどまらず、「生活」そのものに目標を置き、様々な手段（機能訓練・環境整備・社会支援など）を用いて達成するもの」です。その意味では、創心會の全スタッフが大きな意味でのリハスタッフであると言っても過言ではありません。つまり「本物ケア」推進のためには全スタッフの協力が必要になってくるのです。生活力デザイナープロジェクトでは、まず"情報の共有"や"専門性に基づいたアセスメント"を実施するために必要な、身体構造や疾患の特性などの基本知識を習得して頂きます。その後にフォローアップ研修にて勉強や症例検討を行い、実際の現場での知識の活用方法を学びます。特にサービスの質を高めるためには現場に即した症例検討が必要ですが、やみくもに実施するだけでは話が行き詰まってしまいます。円滑に症例検討を進めるためには各人が基本的な知識を持ち、経験や資料に基づいた話の展開が必要となります。　今後は「本物ケア」のために全スタッフが勉強をし、情報の共有を行い、トータルケアを構築するための一つの方法として「生活力デザイナー制度」を活用して頂ければと考えています。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

「生活力デザイナー3級取得者」

★茶屋町センター：定廣 隆司・崎谷 恭子・浅越 由佳

★笹沖センター：続木 準・吉田 康将

★児島センター：藤山 裕美・山口 慎司

★水島センター：村上 裕子・村松 菜美・山根 由加・早瀬 晶子

★中洲センター：三好 津美江・古賀 恭平・島野 真和・藤原 啓

★吉備センター：山田 小百合・村松 明紀・和田 明大・奥野 祥應・賀川 沙夜香・柚木 奈美

★陵南センター：大森 操・青柳 高志・嶋村 修志

★岡山センター：足利 仁美・藤田 英里・三木 美奈子

★邑久センター：久山 麻紀・渋藤 隆史・河崎 崇史・門田 智子・吹抜 梨絵

★元気デザイン倶楽部：松尾 阿由子・安藤 智博・土澤 裕

★五感リハビリ倶楽部：岡本 真由美

★笠岡センター：小林 隆一・三谷 晃子・山田 浩貴・前西 千恵

★琴浦センター：篠原 由貴奈・坂本 圭子

★東岡山センター：高木 智恵・同前 明子

「創心會の皆様へ」

岡山センター　管理者　松尾 祐作

この度は、諸事情により長期に渡りお休みを頂くなど、皆さんにご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。今回の事は、自分自身、非常にショックが大きく落ち込んでいたのですが、休んでいる間にも、所属センターの方たちを初め、他センターの方からもお気遣いの電話やメールを頂き、その内容にとても感動し、励まされました。最近、世の中の人間関係が希薄になりつつあると感じる中、創心會のスタッフの方たちは、思いやりがあり、温かさがあり、このような方たちに囲まれ一緒に仕事が出来る事に感謝しています。それに加え、この度は、一個人の事にも関わらず、皆様からのご好意を頂き、言葉では言い表せない位、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。4月からは仕事に復帰させて頂いています。頑張りますので、これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

Soushinkai
Topix

完成イメージ

【Neo茶屋町に対する各部門としての思い】

訪問リハビリテーション部門

土居 義典

トータルケアのさらなる実現にむけて新しい拠点がNEO茶屋町です。創心会はリハケア革命を掲げ、その一端を担う訪問リハ部門はリハビリテーション理論の提供により出来る能力の発見、促し、自立へのプロセスにて利用者様が「一生使える生活技術」の向上また「生活主体者として心構え」の芽生えに関わらせて頂けたらと思います。これらを実現するために訪問リハとリハビリ倶楽部を中心にリハ理論の提供、またリハケアの実施にむけて看護、介護、生活環境プランニング部門と一緒になりトータルケアを達成していきたいと考えます。新しい拠点により細やかで個別性の高いサービス提供をチームで達成できる喜びを感じる一方で、リハ理論の根幹であり創心会の基本理念でもあります、利用者様に関わるリハスタッフのメンタルアティテュードの形成支援を大切にしながら新しい拠点で心機一転したいと考えます。

居宅介護部門

佐藤 健志

若いスタッフを中心に、プロジェクトを盛り上げておられる姿を見せて頂き、皆さんの頼もしさにいつも感動しております。居宅としてネオ茶屋町に期待する事は様々ありますが、たとえばデイサービスについて端的に言えば、ご利用者様のニーズに応じた、サービス選択の幅が広がる、という事があります。サービス選択の幅が広がるという事は、ケアマネにはアセスメント力、提案力など、自ずと高いレベルのものが求められるようになるでしょう。また、私たちのケアマネの責務としては、サービス部門の拠点として、より緊密な連携を行い、チームの結束力を更に高めて行く、という事も挙げられます。つまりは、各員の更なるレベルアップが必要だ、と捉えています。とはいえ私自身も、部門長、ケアマネジャーとしてもまだまだ未熟です。新たな環境で、自分に何ができるのか、チャレンジャーの気持ちで頑張りたいと思います。という訳で、「自己成長の喜びを、皆で分かち合おう!」をコンセプトと考えています。

訪問介護部門

大森 美由紀

NEO茶屋町が立ち上がり、今後、創心會として求められる事がより一層増してくると思われます。ご利用者様のニーズに合った機能訓練をNEO茶屋町で受けていただき、自宅に戻ってからは、私達、ヘルパーがご利用者様、ご家族の方と共に、目標に向かい、一日でも長く在宅で過ごせるよう、そして、ご利用者様が役割を持って暮らすためのお手伝いをしたいと思っています。デイサービスでは気が張っていて、やる気になっているご利用者様でも、家に帰ると気力が萎えて怠けてしまいがちです。そこで、在宅でも前向きになっていただけるよう、自立支援に向けての利用者と共に行う家事では、掃除、洗濯、調理等、声掛けしながら、一緒に行うことで、ご利用者様自身が出来る事を再確認していただきたいと思います。ヘルパーはご利用者様に一番近い存在であると思っています。そんな私達の目で見たこと、感じたこと、気付いたことを報告し、チームとして関わる役割を担いたいと思います。

通所介護部門

宮内 祥

笑顔のエネルギーに満ちあふれた「人がその気になる環境」創りで地域とともに暮らす、あなたを応援します。この度のNEO茶屋町オープンは、リハビリ倶楽部第1号のオープンより8年という月日が経過し、15事業所と拡がった今、改めて創心會デイサービスの「原点とは」「あるべき姿とは」「今後の発展」を考えるとても良いきっかけになりました。14期以降、通所介護部門は:利用者・スタッフともに笑顔のエネルギーに満ちあふれた「その気になる環

境」創り〟をテーマにサービス、業務体制、共育体制、雇用・処遇などの労働環境を築き「ケア革命」を進めていきます。その先駆けになれるようにNEO茶屋町プロジェクトのメンバーが一人一人が大きな課題に立ち向かい取り組み、成長し続けています。10月1日オープンに向けてあと僅かになり、期待が大きい分、不安も強くありますが、皆さんの応援を頂きながら、NEO茶屋町プロジェクトメンバー一同、何が何でもがんばって〝やりきりたい〟と強く思っています。

訪問看護部門

横山登岐子

本社近くに新しいリハビリ倶楽部、元気デザイン倶楽部がオープンすることに大変期待しています。早島、茶屋町の知人から「創心会は他ではないリハビリ、脳トレがありディサービスへ行くと良いと聞いたので今度できる施設はどんな事をするのか。」利用している利用者より「スタッフが優しいから嫌にならずに行けるよ。」とある集まりで話がでました。私は話を聞いていく中で地域の人は私達の創心会を見ている、見られているのだと考えさせらせました。住み慣れた我が家で生活したい人は多いでしょう。その為にも利用者一人ひとりのニーズに合わせたリハビリを実施して自宅で安全に生活してもらえるといいですね。通所だけでなく生活環境プランニング、訪問リハビリそして医療処置、健康管理など疾患に対応できる訪問看護がお手伝いさせて頂きます。総合ケアが出来る創心会ですから地域の期待に応じえるように部門一体で生活環境を提供したいです。NEO茶屋町プロジェクトのスタッフの皆様利用者様が元気になる環境づくりは大変ですが期待しています。

生活環境プランニング

原田 薫

今回、Neo茶屋町が建設されるに当たり、部門として、もっとデイサービスと在宅とを上手く橋渡しできる仕掛けをどんどん行っていきたいと考えています。まず手始めは、お元気でリハビリ意欲の高いご利用者様をターゲットに【創心會リハビリグッズAセット、Bセット、Cセット】といった段階に分けたリハビリグッズをデイサービスとコラボレーションして開発していきたいと思っています。今まで以上に多職種の方々と連携を行い、ケアチーム構築の中心的部門に成長していくため、また、他部門の方と共にスキルアップしていく為、部門長間でしっかり連携を図り、在宅での様々な仕掛けも考えていきたいと思います。ご利用者様が、生きる意欲を見つけ出し、力強く生活していける環境作りのお手伝いをさせて頂きたいと思います。また、難病の方や重度の方へのケアもチームとして取り組んでいきたいと思います。一人でも多くの方が、生きる歓びを感じていただけるよう、私たちも成長し続けていきたいと思います。

グループホーム部門

山本 光紀

グループホーム心からも開設してはや6年が経とうとしています。当初から私たちは「認知症ケア」に対して、熱意と行動でのみ取り組んでいたと思います。しかし様々なご利用者様の認知症状を目の当たりにし、どうしたらよいかわからず、これでは私たちが目標とすべき「心豊かな生活」を送っていただくには程遠い現状もありました。またグループホームとしての方針も明確に定まっておらず、スタッフの意識統一も出来ていませんでした。そこで来期14期ネオ茶屋町プロジェクトの一端としてグループホームも1ユニット増設されますが、創心會のグループホームとしてもう一度原点である「認知症ケア」に向き合って、さらに専門性の追求をしていきたいと考えます。そこにはスタッフの「知識」「技術」だけでなく「専門性に基づいた行動規範」「状況に応じた対応」そしてご利用者様への理解を深めケアに反映する「人知生ケア」の具体化が必要と考えます。私たちの思いを形にしご利用者様、スタッフ、そこにいる全ての方の生活の潤が潤うことが私たちの働く上での喜びであるよう、形にしていきたいと思います。

平成21年秋、NEO茶屋町OPENに向け、5月20日地鎮祭が厳粛な雰囲気の中行われました。地鎮祭には土木工事や建築などで工事を始める前に行う、その土地の神(氏神)を鎮め、土地を利用させてもらうことの許しをえるとの意味があり、参加者は神妙な面持ちで儀式に参加し、NEO茶屋町建設の安全、未来永劫の平和を祈願しました。

パソコンスキルアップ講座

"Microsoft Excel"編

Chapter_002

これは便利!!「オートフィルタ」

[講師]倉敷本社 業務管理部 松本賢治

Skill rise lecture

★オートフィルタは条件に合うデータを抽出するのに便利な機能です。AND検索が可能です。オートフィルタ・オプションでは検索条件(AND・OR)が2個まで可能です。
★このページでは次の資料-01のデータ表を使って説明します。
★データ表から特定の条件でデータを抽出します。

資料-01

	B	C	D	E	F	G	H
2	伝票No.	日付	担当者	型番	単価	数量	売上金額
3	1001	2006. 1. 1	岡田	A-001B	5,000	15	75,000
4	1002	2006. 1. 1	上村	A-001W	5,000	22	110,000
5	1003	2006. 1. 1	相沢	C-105W	8,000	14	112,000
6	1004	2006. 2. 1	井上	B-022B	6,000	24	144,000
7	1005	2006. 2. 1	相沢	A-001B	5,000	15	75,000
8	1006	2006. 2. 1	岡田	A-001W	5,000	12	60,000
9	1007	2006. 3. 1	上村	B-022B	6,000	13	78,000
10	1008	2006. 3. 1	岡田	C-105B	8,000	12	96,000
11	1009	2006. 3. 1	相沢	A-001W	5,000	16	80,000
12	1010	2006. 4. 1	上村	B-033W	7,000	14	98,000

【問題】
データ表から担当者『岡田』のデータを抽出しなさい。

【解答例】
❶クリックして選択します。
★データ表が空白行/列で途切れていたり、別の表が連続している場合には、対象とするデータ表全体(セル範囲)を選択します。上記例題では、B2:H13を範囲選択します。
★メニューバーの【データ】→【フィルタ】→【オートフィルタ】を選択します。
項目行に【オートフィルタ矢印】が表示されます。
【オートフィルタ矢印】をクリックすると「抽出メニュー」が表示されます。
「抽出メニュー」から『岡田』を選択しました。『担当者』が『岡田』のデータが抽出されました。『担当者』の【オートフィルタ矢印】が青色に変わってオートフィルタ機能がオンになっていることを示します。

資料-02

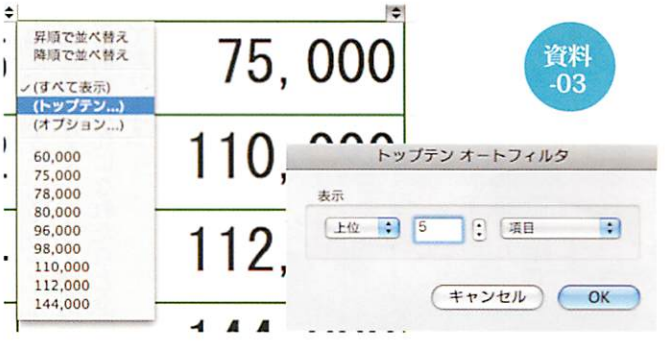
オートフィルタの解除方法
抽出の解除をするには『すべて』を選択します。【オートフィルタ矢印】をクリックして、「(すべて)」を選択します。
【データ】→【フィルタ】→【すべて表示】を選択します。
オートフィルタを解除するには、メニューバーの【データ】→【フィルタ】→【オートフィルタ】を選択します。
オートフィルタが機能している時は「レ」(チェック)が入っています。
オートフィルタ・トップテン上位/下位から指定した順位のデータを抽出する 項目数とパーセント(例 上位30%のデータ)で指定できます。

【問題】
データ表から『売上金額』の上位(大きい)5個のデータを抽出しなさい。

【解答例】
★データ表(リスト)内をクリックして選択します。データ表が空白行/列で途切れていたり、別の表が連続している場合には、対象とするデータ表全体(セル範囲)を選択します。
上記例題では、B2:H13を範囲選択します。
★メニューバーの【データ】→【フィルタ】→【オートフィルタ】を選択します。項目行に【オートフィルタ矢印】が表示されます。
『支出』の【オートフィルタ矢印】をクリックし、【トップテン】を選択します。ダイアログで「上位」「5」「項目」とそれぞれ選択します。支出の大きい方から5個のデータが抽出されました。

★「パーセント」で選択すると、値の大きい順には並びません。データ行が表示されるだけです。
★「パーセント」で選択する
1.メニューバーの【データ】→【フィルタ】→【オートフィルタ】を選択し、選択リストから『トップテン』を選択します。
2.データ数の上位/下位何パーセントに入るデータを抽出するかを設定します。この例ではデータ数が「17」なので、17*0.2=3.4=3(小数以下は切り捨て)で上位「3」個のデータが抽出されます。
オートフィルタ・オプション
複数条件での抽出を行います。
『AND』と『OR』を使います。
AND:「A AND B」は「AかつB」、「AとBの両方を含む」
OR:「A OR B」は「AまたはB」、「AかBのどちらかを含む」

資料-03



Bulletin board

【みんなの掲示板】

「第1回フレッシュ杯ボーリング大会」お知らせ

「機関誌創刊号の発行に寄せられたご意見やご要望」編集後記

平成21年6月13日(土)、第1回「フレッシュ杯」が開催されました!!

フレッシュ杯というのは、会社主催のボウリング大会です。パートナー制度の行事の1つとして企画されたこの大会。目的は、「各センターに配属された新人同士が再会し、近況報告が出来る」「新人と先輩・上司の親睦を深めることが出来る」「各センターの結束を高める場である」ことで、"楽しく仕事ができる環境づくり"に繋がることです。

当日は、当初の予想を超える108名の参加者と応援団が集まり、会場はヒートアップしていました!センター対抗戦でしたが、ユニフォームを揃えている、応援うちわを作成しているなど、創心會らしさいっぱいのユニークなパフォーマンスが見られました。新人同士が久しぶりの再開に喜ぶ姿、上司と部下がハイタッチをする姿・・・会場には賑やかな歓声と笑い声が溢れていました。今回、全センターよりスタッフに参加して頂けました。当日までの間に、ボウリングの練習に行ったというセンターの声も多く聞かれ、本当に良い交流の場となりました。来年、再来年と継続し、会社のメイン行事となれるようにしたいです。ご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました!!

お知らせ

2009年10月1日発行予定の「秋号」について編集部よりお知らせです。秋号ではスタッフの更なるスキルアップを目指したいという想いもあり、より専門的な内容を掲載できたらと考えております。そこで機関誌での論文発表をスタッフの皆様に募集します。

「テーマとして」

❶「介護予防における主体性の引き出しについて」❷「認知症へのアプローチ」❸「ホスピタリティー(心のこもったおもてなし)の極み」❹「セラピストとしての心構え」❺「進行性難病へのアプローチ」❻「在宅生活における福祉用具のあり方」❼「エンパワーメント的環境整備」を挙げ、これらのテーマについて4000字以内(A4・2枚程度)にまとめた論文を募集します。また、これら以外のテーマでも、構いません。やってみよう!!という方は7月15日までに「希望テーマ」と「氏名」を総務・赤澤までご連絡下さい。皆様の力で機関誌をもっと盛り上げていきましょう!!宜しくお願い致します。

機関誌創刊号の発行に寄せられたご意見やご要望

【良かった点】

★他の人の取り組みを知ることができてよかった。

★全社的な取り組みがわかって励みになった。

★PCの記事が役に立った。

★センターが多くなってきたので、他センターの取り組みや顔が見えてとても良かった。

【ご要望】

★きらり祭り、もちつきなど特別な取り組みではなく日ごろから取り組んでいることなども紹介してほしい。

★「学ぶ」為には物足りない。専門的な記事が欲しい。　等々

他にも多数のご意見をいただきました。ありがとうございました。今後の機関紙制作に活かしたいと思います。ご意見、ご要望があれば共有フォルダに「機関紙要望」がありますので書き込んでください。

編集後記

今回の夏号は、5月17日に行われた社内発の「本物ケア学会」での症例発表と、社内スタッフより収集させて頂きました、論文を掲載させて頂く運びとなっております。これは社長が機関紙というツールを、創心流地域リハケア革命を起こしていく為のステップとして、学びのアイテムに存分に活用し、社員一人一人の専門性、知識、技術、意欲の向上を図って欲しいとの思いから始まりました。発刊に至ってはメンバー皆で、手探りからのスタートではございましたが、皆さんの努力と応援とご協力のお陰で、無事に第2号を発行することが出来ました。業務の合間を縫って取り組んで下さった方、忙しい中陰で尽力して下さった皆様方本当にありがとうございました。内容はまだまだかと存じますが、今後、皆様のご意見等にてどんどん進化していくことと思います。貴重なご意見やご感想もどしどし募集しておりますので、よろしくお願い致します。

最後に、この機関紙が前に述べた専門性を高めるものとなる事は勿論、その他にも、創心會で働く皆さん一人一人の結束を強くし、励ましや、やる気の向上に繋がるような希望をお届け出来るものとなれば幸いです。そして、いつも小脇に、デスクに、マイファイルに忍ばせて頂けるようなマイ機関紙携帯的な存在になれたらと念願しております。

機関誌編集スタッフ一同

宮内